

令和4年度東京都立大江戸高等学校学校経営計画

令和4年4月 校長 高島 由紀子

1 目指す学校

本校は、チャレンジスクールの使命を果たすため、「今までよりも、これから」という理念の下、生徒が「入学してよかった。」「卒業できて嬉しい。」と実感できるよう、「安心して通える学校」「チャレンジできる学校」「地域に支えられ育てられる学校」を目指す。教育目標、目指す生徒像及びスクールイメージを次のように示す。

(1) 学校の教育目標

本校は、生徒一人一人が知性、感性、道徳心や体力を育み、人間性豊かに成長し、社会で自立していく力をつけることを願い、

○チャレンジする人間 ○創造的な人間 ○信頼される人間

の育成に向けた教育を推進する。

(2) 目指す生徒像

自分にチャレンジする生徒（前向きにチャレンジし、自らの進路を切り拓こうとする生徒）、自ら学ぶ力（基礎学力）を身に付けた生徒、マナーとボランティア精神を身に付けた生徒の育成を図り、「自立して社会に貢献できる人」を目指す。

(3) スクールイメージ

○チャレンジ Challenge ○創造 Creation ○信頼 Confidence

2 中期的目標と方策

(1) 「安心して通える学校」づくり

ア 生徒に寄り添い、相談体制の充実を図るとともに、生徒が自分自身をきちんと受け止め、自分らしく生きられるようサポートできる体制を整備する。

イ 生徒が社会生活におけるマナーとコミュニケーション能力を身に付けることができる指導を行い、思いやりをもち、互いを支え合い高め合うことができる学校をつくる

ウ 生活指導を重視し、時間・身だしなみ・健康等で自律した生活が送れるよう指導する。

(2) 「チャレンジできる学校」づくり

ア 生徒一人一人の多様な学ぶ意欲を受け止め、学ぶ喜びを実感できる学校をつくる。基礎・基本の定着を図り、主体的に学ぶ力を育成する。

イ 総合学科、単位制、三部制の特徴を生かし、さらに、学校外における学修成果の単位認定などを行い、生徒の興味・関心や学ぶ意欲を高め、知識・技能を身に付けさせる教育課程を編成する。

ウ ホームルーム活動を重視するとともに、特色ある学校行事、部活動、ボランティア活動等多様な体験を通して社会性の育成を推進する。

エ チャレンジ指定科目と連携した系統的・継続的なキャリア教育を実践することで、自分の将来に希望がもてるようにする。

(3) 「地域に支えられ育てられる学校」づくり

ア 地域の人材を活用し、教育活動に地域の伝統や文化を積極的に取り入れる。

イ 地域の伝統産業や施設等と連携した体験学習を重視する。

ウ 保護者、地域関係者との連携を推進し、開かれた学校経営を行う。

エ 学校の人材・施設・設備を活用して、地域文化の向上に貢献する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

重点目標	具体的な方策
(ア) 生徒の学力向上に向けた組織的・継続的な取組の推進	①学力向上委員会を開催（定期）し、学力向上研究（校内寺子屋）事業を通して、生徒（1年次）の基礎学力の定着を図る。 ②進学対策委員会を開催（定期）し、学力テストの分析を各教科で共有し、教科指導に生かす。 ③習熟度別指導授業、少人数指導授業、授業日の空き時間、土曜講習、長期休業中を利用した講習等を行い、習熟度に応じた学力向上を図る。 ④教科担任とクラス担任の連携を密にし、出席率・履修率・修得率の向上を図る。

(イ) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導の充実	①教科会（月1回以上）を開催し、教科マネジメントの定着を図る。 ②「都立高校学力スタンダード」事業を通して、生徒の実態を踏まえた組織的・効果的な教科指導に取り組む。 ③教師道場や指導教諭の授業参観、研修センターや民間等による研修に参加し、授業力の向上を図る。 ④校内研修を実施し、ICT機器、学習支援クラウドサービスを活用した教育活動の充実を図る。
(ウ) 生徒の学ぶ意欲の向上に向けた学習評価の工夫・改善	①各教科でルーブリック評価、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価など多様な評価方法を研究・実践し、学習到達度や学習経過の評価を生徒に還元することで学習意欲の向上につなげる。 ②相互授業参観（通年）を通して、生徒理解及び教科横断的な指導の工夫・充実により学習意欲の向上を図る。
(エ) 言語能力の向上に向けた読書（新聞も含む）活動の充実	①授業、ホームルーム活動、年次行事等において図書館利用の推進、読書活動の活性化を図る。 ②一人一冊以上読破を目指すとともに、校内「高校生書評合戦」に取り組む。
(オ) 英語によるコミュニケーション能力の育成	①JETやALTを積極的に活用し、語学力の向上、異文化理解の促進を図り、英語によるコミュニケーション能力を高める。

イ 生活指導

重点目標	具体的な方策
(ア) 安心・安全な学校生活の推進	①全教職員による授業規律を徹底し、落ち着いた学習環境を整える。 ②授業開始と終了の時間を徹底して生徒の時間を守る意識を高める。また、終始のメリハリをつけるために挨拶を励行する ③いじめに関する調査を実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決を徹底する。
(イ) 生徒一人一人の社会的・職業的自立の実現に向けた規範意識（生活習慣、身だしなみ）の育成	①生活指導基準を基に、全教職員による統一した生活指導（遅刻防止、頭髮及び服装等）に取り組む。 ②公共の場や交通機関、学校生活を送る上でのルールやマナーを厳守させ、規範意識を高める。特に、全教職員の指導によるSNSルールの徹底を図る。
(ウ) 生徒一人一人に応じたきめ細やかな組織的指導の徹底	①教育支援委員会を開催（定期）し、生徒一人一人の状況を早期に把握・共有し、生徒の状況に応じた指導体制を構築する。 ②SC、自立支援チーム、その他専門機関と連携し、中途退学や不登校の未然防止を図り、生徒の自立につなげる。 ③1年次の二人担任制、2年次生以上の担任と副担任の連携により、多面的な生徒支援を継続して行う。
(エ) 校内美化、環境に配慮した意識と実践力の向上	①委員会活動を中心に、校内美化に努めるとともに、節電、省エネに向けた意識と実践力の向上を図る。

ウ 進路指導

重点目標	具体的な方策
(ア) コミュニケーション能力、社会性の育成を踏まえたキャリア教育の充実	①キャリア教育全体計画を基に、組織的なキャリア教育を実践する。 ②キャリア教育推進委員会を中心に「チャレンジ指定科目」の指導内容・指導方法を常に検討し、改善を図る。 ③計画的・系統的なキャリア教育の取組を通して、自己理解と将来設計につなげる。
(イ) 三修制、四修制に配慮した進路指導体制の確立	①ガイダンスの実施とともに、ハローワーク、サポートステーション等との連携を深め、進路指導の充実を図る。 ②学力テストによる学力の推移の把握、資格取得の奨励など組織的な取組を生かした進路指導を行う。

(ウ) 個々の希望進路の実現に向けた組織的な指導の充実	<p>①特別な支援を必要とする生徒に、組織的な就労支援体制等を構築し、卒業後の移行支援を見据えて指導する。</p> <p>②特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援学校のセンター機能の活用した進路指導の充実を図る。</p> <p>③進路指導部、年次(複数担任制及び担任と副担任の連携)、教育支援委員会等が綿密に連携することで本校での卒業を大切に、進路未定者を減らす。</p>
-----------------------------	--

エ 特別活動・部活動・その他

重点目標	具体的な方策
(ア) 感染症対策を講じた生徒会活動、学校行事の取組	①これまでの生徒会活動、学校行事を精選し、感染症対策とともに創意工夫を図った生徒会活動、学校行事に取り組む。
(イ) 生徒の連帯意識、自己有用感や社会性を高める活動の充実	<p>①年次集会や部集会を活用し、講話や生徒会からの情報発信等を通して大江戸高校生としての自覚と連帯意識を育む。</p> <p>②部活動加入を促進し、生徒の体力や気力の向上を図るとともに、達成感や満足感を体験させることで、主体的に活動することの意義を感じさせ、リーダーの育成を図る。</p> <p>③地域における生徒会活動、部活動の取組を通して自己有用感や社会性を高める。</p>
(ウ) 地域と連携した防災教育の充実	①地域と連携した避難訓練等を実施し、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。
(エ) 体罰、暴力的指導、行き過ぎた指導のない部活動指導の徹底	<p>①部活動の顧問教諭は、部活動の「指導方針等」を作成し、生徒・保護者に対して説明を行い、さらに保護者に対して指導状況の参観の機会を設ける等体罰防止に向けた取組を行う。外部指導員については、経営企画室を含めて委嘱・承諾を適切に行う。</p> <p>②体罰について、実態調査とともに校内研修を行う。</p>
(オ) オリンピック・パラリンピック教育の推進(事後)	①昨年のオリンピック・パラリンピックに向けて培われてきたボランティアマインドや国際感覚を基に、学校2020レガシーの取組を推進する。

オ 健康づくり

重点目標	具体的な方策
(ア) 体力向上に向けた取組の充実	①大江戸BTPの取組、部活動、「アクティブプラン to 2020」に基づき、体力向上を目指す。
(イ) 多様な生徒に対応した教育相談体制の確立と事故防止に向けた取組の推進	<p>①心と体の健康づくりへの組織的な取組を行い、生命に関わる事故の未然防止を図る。</p> <p>②「精神科医による校医事業」、「都立高等学校等への特別支援教育心理士巡回相談事業」及び「通級指導」を通して、専門家のコンサルテーションを生かすとともに関係機関との連携を図る。</p>
(ウ) 健康づくりに向けた組織的な指導の充実	<p>①学校保健計画に基づき、生徒・保護者の主体的な意識の向上に向けた指導の充実を図る。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症などの感染症、心の健康づくり、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修を実施し、組織的・具体的な指導を行う。</p> <p>③生徒に対し、薬物乱用防止教室、情報モラル・リテラシーに関する教室、交通安全教室、喫煙防止教室等を通して指導する保護者にも保健だよりや年次通信の配布等により、子供理解のための支援を行う。</p>
(エ) 学校給食を活用した食育の推進	①栄養職員、給食担当教員、クラス担任等を中心に、学校給食等を活用した食育の一層の推進を図る。給食だよりを通して、食に関する知識と正しい食生活について理解を深めさせるとともに、食の楽しさを伝える。

カ 募集・広報活動

重点目標	具体的な方策
(ア) 募集・広報活動の活性化	①総務部を中心に、ホームページ等を介して学校情報を積極的に発信し、応募倍率の向上に向けた組織的な取組を行う。 ②学校見学会、体験授業、学校説明会、募集要項説明会等の計画的な実施、適応指導教室、教育相談室及び1年次生出身中学校等への訪問を実施し、本校の学校情報を提供する。 ③退職教職員等ボランティアを活用し、平日における個別学校見学を実施する。 ④各種通知文や年次通信等をホームページ等に掲載し、在校生保護者、中学生やその保護者に対して教育活動の周知を図る。

キ 学校経営・組織体制

重点目標	具体的な取組
(ア) 組織的・計画的な学校運営	①企画調整会議を中心に、主幹教諭、分掌等主任、経営企画室が一体となった学校運営に取り組む。 ②校内研修を通して、目指す学校像及びグランドデザインの共通理解を図り、一貫した協働的指導体制による学校運営に取り組む。 ③「OJT診断基準」、「執務ガイドライン」を活用し、教員が一体となって学校運営に当たっていく体制を整える。 ④「経営参画ガイド」や事例集を活用し、経営企画室の経営参画を推進し、教育職員と行政職員が密接な連携の下、学校運営を進める。 ⑤学校経営計画の実現に向け、経営参画型経営企画室としての機能強化を図る。
(イ) ワーク・ライフ・バランスの推進	①「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、会議の短縮化、定時退庁を推進し、時間外勤務の縮減を図る。 ②年間10日以上年次有給休暇の取得に取り組む。
(ウ) 自立経営推進予算の有効活用と学校環境の整備	①予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ②施設・設備の安全確認、効率的利用の視点から校内外を巡視するとともに、より安全・安心な学校環境の整備を図り、不備による事故をゼロとする。
(エ) 安全管理、危機管理体制の整備	①施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。
(オ) 新学習指導要領の実現に向けた取組の推進	①グランドデザインを基に、目指すべき生徒の将来像の実現に向けた教育実践について、全教職員で共通理解を図る。新学習指導要領の実現と教育目標を効果的に達成するための教育課程を編成する。

(2) 数値目標

- ア 生徒による授業評価において、満足度、理解度70%以上。
- イ 教員による相互授業参観を学期1回以上、ICT機器、学習支援クラウドサービスの活用推進に向けた校内研修を年間2回以上
- ウ 1・2年次の基礎学力テストで、英語、数学の学力段階D3を30%以下、C以上を30%以上
- エ 資格取得を奨励し、資格取得者150名
- オ 生徒の進路決定率80%以上
- カ 学校行事、年次行事の生徒参加率80%以上
- キ 部活動加入率45%以上
- ク 学校説明会の参加者800人以上、個別訪問対応150人以上
- ケ 入選倍率1.3倍以上
- コ 給食喫食の生徒率（3部生）60%以上、実際の食数率80%以上
- サ ホームページ等の更新を年間100回以上
- シ 自律経営推進予算のセンター執行割合60%